寄島遺跡（本発掘調査B）

所在地　安城市姫小川町地内
（北緯34度54分44秒 東経137度05分46秒）

調査理由　中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)

調査期間　令和6年7月～10月

調査面積　618㎡

担当者　堀木真美子・河嶋優輝

調査地点（1/2.5万「安城」）

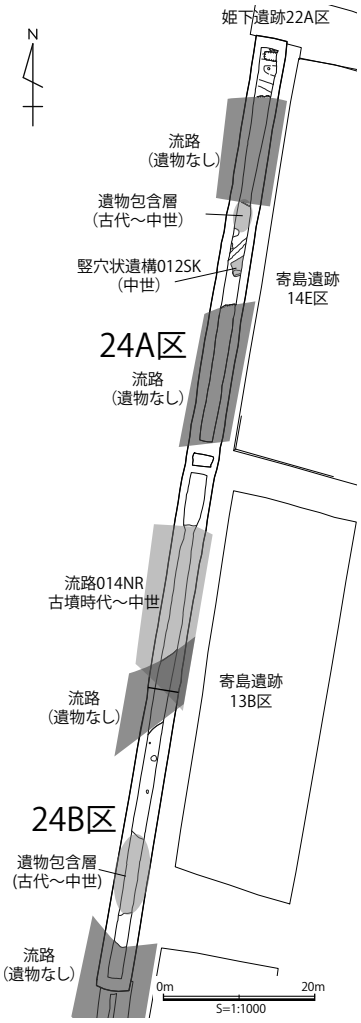
調査の経過　調査は、愛知県建設局知立建設事務所河川整備課による中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受け、実施した。当遺跡は平成19年度から調査を開始し、今年度が第8次の調査となる。今年度の調査区は遺跡北端部の市道部分にあたり、北は姫下遺跡2022年度調査区と接し、南は寄島遺跡2023年度調査区と接する。今年度は調査区を北から24A・24Bの2区に分割して調査を実施し、調査面積は計618㎡である。

立地と環境　遺跡は、碧海台地東縁部から沖積地に広がる鹿乗川流域遺跡群の一部であり、遺跡群の南群に位置する。

調査の概要　調査では、市道整備時の整地土および旧耕作土の下層に、遺物を含まない時期不明の流路跡が複数確認された。これらが基盤層まで深く掘り込まれているため、調査面積の半分ほどが削平を受けている。

削平を免れた遺構には、古墳時代から中世の遺物を含む流路跡が1条、中世の遺物を含む竪穴状土坑が1基ある。そのほか、古代～中世の遺物包含層が2箇所で確認された。

旧流路　旧流路014NRは今年度調査区の中央部で検出された。寄島遺跡13B区で確認されたものと連続しており、出土遺物は、古墳時代前期の土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗などがある。出土遺物の時期幅が広いため、単一の流路ではなく、複数期のものが重なっているものと考えられる。



寄島遺跡 24 年度調査 主要遺構図
S=1/1000

竪穴状遺構　竪穴状遺構012SKからは、土師器小型壺1点のほか、山茶碗の破片が複数点出土した。柱穴や周溝等の施設は確認できない。

遺物包含層　調査区内の2箇所で中粒砂質土を中心とした遺物包含層が確認された。土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、伊勢型鍋のほか、中世後半に属する羽釜が出土している。

ま と め　今年度調査では、時期により場所を変える複数の流路跡が確認されており、包含層等は確認できるものの、居住などが行われる場所ではなかったものと思われる。　（河嶋優輝）